

授業科目：	環境社会科学 I		
科目区分：	環境科学科専門科目	受講者数：	53 名
担当者：	小林 謙介（生命環境学部環境科学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ 参加型 ・ 複合型（※行動型・参加型 AL を組み合わせて実施）		
キーワード（具体的な AL 手法等）：	ディスカッション，コメントシート，ルーブリック		

1. 授業の概要と目標

本授業の目標は、「環境問題の回避・解決のためには、様々なステークホルダー（利害関係者）が、それぞれの立場で対策に取り組む必要がある。本講義では、国・自治体、事業者、個人・市民など、社会におけるそれぞれの立場から、環境問題にどのような形で取り組み、循環型社会の構築に向けた活動が行われているのかを理解する。」であり、対面形式で実施している。

特に、実社会における環境関連の事象・活動等（自治体・企業・市民等の活動、法律、倫理、経済など）を知り、持続可能な社会に向けて自らが何をすべきかを自ら考える力を養うことを目指す。基礎知識だけではなく、自らの意見を持つことも重要と考え、できる限り、授業時間内にディスカッションを行う時間をとっている。

2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名 環境社会科学 I

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 予習課題の提出 前回授業の振り返り(5分程度) 本日の授業のルーブリック(実施内容と到達目標)の説明、後半で実施するディスカッションのテーマの提示(5分程度) 	<ul style="list-style-type: none"> 各回の最後に質問・コメント等をシートに書かせており、それらに対する回答を全員の前で行う。 	
展開 70分	<ul style="list-style-type: none"> 講義(内容の説明) 教員が作成した資料をもとに、本日に関わる内容について説明(45分程度) ディスカッション 導入で出題したテーマについて、説明した内容を踏まえて、自分の意見をコメントシートに書かせる(5分程度)。 次に数人程度のグループを作り、自分の意見を説明するとともに他人の意見を聞き、ディスカッション。それらの内容について、コメントシートにメモする(10分程度)。 最後に、ディスカッションを踏まえた考えたことをコメントシートにまとめる(10分程度)。 	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションについては、事前にテーマを出題したうえで講義を行うことで、学生の集中力を高めることを狙っている。ディスカッションは、自分の意見を持つこと、自分が考えた意見とは別の意見を持つ人がいること、それを踏まえて、学生の考えの幅を広げさせることを目的としており、対話だけではなく、スマホで情報を検索することなども許可している。 	
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> 本日の活動の振り返り(授業終了時まで提出) 確認テストの実施 質問等のコメント記入 次回の予習課題の出題(次回授業開始前までに提出) 	<ul style="list-style-type: none"> 本日の学修全体の振り返りを行う(主要なキーワード等の理解状況確認等)。また、不明な点はその場で教員に確認するか、コメントシートに記載させ次回回答する。 	<ul style="list-style-type: none"> 提出されたコメントシート・確認テストの内容をもとに評価

3. 成果・効果

学生へのアンケート調査結果を見ていると、任意の環境問題に対する自分の意見を整理したり、

学生同士意見を交換したりすることはあまりなかったため、大変良かった（他の授業でも実施してほしい）との声が多く聞かれた。こうした取り組みにより、学生自らが、いっそう主体的に考えを持つようになることが期待できる。

4. 課題

大人数であるため、グループ編成は学生に任せざるを得ない。自由にグループを作らせると、どうしても自らその輪に加われない学生がいる。そのためディスカッションの質については学生によって大きくばらつく点が課題である。

5. 資料

講義資料（印刷の上、パワーポイントで投影しながら説明）、回覧資料（必要に応じて）、予習シート、確認テスト・コメントシート・ディスカッションシートなど